

| | |
|-----|----------------|
| 組織名 | 青森公立大学地域連携センター |
|-----|----------------|

1 組織概要

| | |
|--------|--|
| 所在地 | 青森県青森市合子沢字山崎153-4 |
| TEL | 017-764-1589 |
| FAX | 017-764-1593 |
| URL | http://www.nebuta.ac.jp (本学HPに統合されました。) |
| e-mail | renkei@b.nebuta.ac.jp |
| 設立 | 2011年4月1日 |
| 設置都市等 | 公立大学法人 青森公立大学 |
| 代表者 | 香取 薫(センター長/青森公立大学長※兼務) |

2 組織動向

| | |
|--------------------|--|
| (1) 沿革 | |
| 設置経緯 | 1998年、青森公立大学の附置研究機関として地域研究センターが開設された。その後、大学法人化に伴い組織の変更があり、2011年4月に新たに地域連携センターが設立され、地域研究センターは地域連携センターの下部組織となった。2018年4月に、地域研究センターは地域連携センターに統合された。 |
| 見直しの動向 | 2005年度より、活動をより一層、組織的に展開するとともに、「研究」「教育」「コンサルテーション」「インキュベーション」の4つを事業活動の柱とし、活動基盤の整備および展開に着手した。これに伴い、事業活動をさらに展開していくとともに、外部関係機関とのプロジェクト、市民との共同研究や事業の企画、実施を進めている。 |
| 役割(2018年時点) | <ul style="list-style-type: none"> ○研究…広域的な地域研究の拠点、市民・企業・行政との共同研究の場となる。 ○教育…地域社会の幅広い年齢層や職業の方々の学びに貢献する(講演会、公開講座)。 ○コンサルテーション…地域の諸活動(自治体、企業)への情報提供や助言活動を行う。 ○インキュベーション…地域社会事業や活動に対し、多角的な視点から支援、協力する。 |
| (2) 組織体制 | |
| 設置形態(択一) | <input type="checkbox"/> 自治体の内部組織 |
| | <input type="checkbox"/> 常設の任意団体(提言等を行う会議体型の団体も含む) |
| | <input type="checkbox"/> 公益法人(財団法人・社団法人) |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 大学の附置機関 |
| | <input type="checkbox"/> 広域連合 |
| | <input type="checkbox"/> その他(具体的に:) |
| 常勤職員数 | 8人 |
| うち常勤研究員数 | 2人 |
| 非常勤研究員数 | 0人 |
| 専門性確保に関する特徴(複数選択可) | <input checked="" type="checkbox"/> 専門的な知識を有した研究員の採用 |
| | <input type="checkbox"/> 外部有識者の活用(研究員として採用した者を除く) |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 大学・非営利活動法人等と連携した研究の実施 |
| | <input type="checkbox"/> 設置市の企画部署と連携した研究の実施 |
| | <input type="checkbox"/> 設置市の関係部署と連携した研究の実施 |
| | <input type="checkbox"/> その他(具体的に:) |
| 庶務体制 | 特に行っていない |
| 庶務体制 | 研究所内で専任の事務局職員が担当している。 |
| 市民参加、外部連携 | 県内自治体をはじめ、産官学金連携との協定を締結し、連携して活動を行っている。 |

| | |
|-----|----------------|
| 組織名 | 青森公立大学地域連携センター |
|-----|----------------|

| | | |
|--|--------|---------------------|
| (3) 会計 | | |
| 会計規模※人件費・間接費(オフィス賃借料、水道光熱費等)は含まない | | |
| 2018年度予算 | 12,986 | 千円 |
| 2017年度決算 | 18,810 | 千円 |
| 2016年度決算 | 13,018 | 千円 |
| 自治体の内部組織以外の団体の場合の事業活動収入の主な内訳 (多い順に選択) | 順位 | 収入種別 |
| | 1位 | 補助金等収入 |
| | 2位 | その他(具体的に:目的積立金取崩収入) |
| | 3位 | その他(具体的に:授業料等) |
| | 4位 | |
| 自治体の内部組織の場合の事業活動収入の主な内訳 (多い順に選択) | 順位 | 収入種別 |
| | 1位 | |
| | 2位 | |
| | 3位 | |
| | 4位 | |

3 活動動向

| | |
|-------------------------|--|
| (1) 活動実績 | |
| 定期刊行物 | 地研ニューズレター(年1回~3回発行) |
| (2) 活動のマネジメント状況 | |
| ア テーマ決定 (複数選択可) | <input type="checkbox"/> 設置市からの要請 |
| | <input type="checkbox"/> 外部有識者等からの助言・示唆 |
| | <input type="checkbox"/> 貴団体・組織で、設置市の総合計画等に明記された重要課題から選択 |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 貴団体・組織で自ら発案 |
| | <input type="checkbox"/> その他(具体的に:) |
| イ 情報発信 (複数選択可) | <input type="checkbox"/> 設置市の議員や幹部職員に、報告や提言を行う |
| | <input type="checkbox"/> 設置市の関係部署に、報告や提言を行う |
| | <input type="checkbox"/> 設置市の庁内の広範囲に、成果物を配布する |
| | <input type="checkbox"/> 報告会を実施する |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 日常的活動を、HP・メールマガジン・ニューズレター等で周知する |
| | <input type="checkbox"/> その他(具体的に:) |
| ウ 活動の評価とその反映 (複数選択可) | <input type="checkbox"/> 設置市の行政評価制度により評価を受けている |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 運営委員会等、貴団体・組織の運営に関わる機関から評価を受けている |
| | <input type="checkbox"/> 外部有識者から評価を受けている |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 報告会・アンケート等の機会を設けて、評価を受けている |
| | <input type="checkbox"/> その他(具体的に:) |
| | <input type="checkbox"/> 特にそういう機会はない |

4 特記事項

| | |
|---------------|--|
| 研究員の業務分担 | 地域連携センター長が統括し、兼任研究員(学部・大学院担当教員兼務)が自ら発案した研究プロジェクトを行っている。専任研究員は、自らの研究の他、その他の地域連家センター事業を担当している。 |
| 研究員の専門性育成の手立て | |
| 研究員のキャリアパス等 | |
| その他 | ○当センターは青森公立大学大学院棟にあるが、青森駅前アウガ6階に「まちなかラボ」(多目的サテライト)を設置し、必要に応じて2拠点で活動している。 |

| | |
|-----|----------------|
| 組織名 | 青森公立大学地域連携センター |
|-----|----------------|

5 2018年度に実施した調査研究

| 調査研究名 | 調査研究の概要 |
|--|--|
| 地域見守り端末に関する調査事業 | 対面式アンケートを佐井村全世帯(約1000)に対して行う。地域情報端末の機能について、聞き取りを行い結果を村に提言するとともに一般に公開する。 |
| 小学校外国語科における「書くこと」の到達目標の分析とライティングテストの開発 | 本研究は、英語のライティングを研究主題としている先進小学校の取組みやライティングに関する文献調査から、小学校英語での「書くこと」の能力における構成概念の理論的定義と操作的定義を策定した後、最終到達目標並びに下位到達目標の設定とその関係性の分析に取り組み、その上でテスト細目規程(テストの目的、対象者、測定する能力、構成、問題形式、形態等)を作成し、それに基づいたライティングテストのひな形を開発する。また、作成したテストを青森県内の研究協力校で実施し、児童の英語ライティング能力を測定する。そして、研究協力校からフィードバックを得て、修正版を作成する。 |
| 小学校外国語科における青森県版英語リーディング教材の開発 | 本研究は、小学生のインプットとして適した題材の精選と使用語彙の選択、並びにリーディング教材のフォーマットを設計する。その際、英語リーディングに関して先進的な取組みをしている小学校の調査研究とリーディングに関する文献調査をし、その分析を参考にし、また、青森県内の小学校英語指導教員に研究協力を依頼し、教材を作成する。また研究協力校で実際に使用してもらい、そのフィードバックを得て修正版を作成する。 |
| ねぶた出張を考える～東京ねぶたの事例から～事業 | 本事業は、東京を中心として青森ねぶた祭を実施している団体に聞き取り調査を行うものである。東京では、中延、中野、羽衣、世田谷、また千葉の柏などでもねぶた運行を行っている。その運行に関わっているのが、「東京ねぶた連合会」「青森ねぶた囃子 二木組」「首都圏青森ねぶた囃子会」「跳龍會 関東支部」といった団体である。また青森市の観光課などが、東京のねぶた運行をバックアップしているケースもある。そのため青森市市長自ら、東京のねぶた運行で挨拶するケースがある。そういった青森市のねぶた売り込み戦略を包括的に把握することで、今後のねぶた祭の出張の在り方についてまとめ、提言していくことが事業内容である。 |
| 日常文化としての青森ねぶた祭～ねぶた祭を支える人々～ | 本事業は、青森ねぶた祭を運営している人々へ聞き取りを行うことで、祭り全体の運営上の問題や、課題を明確にすることを目的としている。というのもねぶた祭はねぶた本体や、祭り当日の華やかさに目を奪われがちだが、それを支えている人々の話はこれまでほとんど明らかにされていないからである。具体的には観光コンベンション協会、運行団体協議会、商工会議所、青森市役所、青森県庁、警察署などに聞き取りを行う。またねぶた祭を盛り上げている、あおり草紙、藤本建設、正調囃子保存会、跳龍會、竹浪比呂夫ねぶた研究所などの諸団体にも話を伺い、今後のねぶた祭の運行や運営に関して総合的に提言をまとめていく。 |
| 『留学経験のアウトカムがコミュニティに及ぼす影響に関する研究—青森県内への留学生受け入れに関して—』事業 | 留学体験者がコミュニティに及ぼす影響と留学生受け入れに際しての影響力について、また、コミュニティへの経済的波及効果についても、調査・分析を行う。 |
| 浅虫地域力の強化事業 | ①地域コミュニティの活性化: 地域住民・団体の共同体意識や参加意欲を高めるためにコミュニティの場を作るとともに、住民参加型イベントを計画し、実施する。 ②観光ビジネスの活性化 観光コンテンツの開発と誘客活動を主な目的とする観光ビジネス戦略を策定し、実施する。 ③担い手の育成 少子高齢化地域に活気を取り戻す次世代の担い手を育成するために、勉強会を設けるとともに実践的経験を習得させる。 |
| 学生がボランティア活動に参加しやすくなる環境整備に関する研究事業 | スマートフォンにより、ボランティア登録・ポイント付与・ポイント入出力の機能を統一的に管理する仕組みを構築し、関係機関に提案する。 |
| スカイプその他のSNSを活用した地域経営志向インバウンドMICE国際観光企画・プロモーション・評価の国際観光企画・プロモーション・評価の研究事業 | 第一に、地域経営志向インバウンドMICE国際観光企画・プロモーション・評価の情報収集を行い、理論の整理・検証を行う。第二に、インバウンド国際観光の実践的課題を明らかにする。第三に、米国、中国、台湾、インド、インドネシア、フィリピン、アフリカなどから、協力可能な研究者、プロフェッショナル、市民に呼びかけスカイプや、SNSを通じて「地域経営志向インバウンドMICE国際観光企画・プロモーション」を実施する。第四に、「地域経営志向インバウンドMICE国際観光(国際研究会、イベント)」を実施する。第五に、以上の評価を実施する。調査研究をまとめ、外国からのインバウンドMICE国際観光を通じた産学官金連携による戦略的可能性を明らかにする。 |
| 青森県内の自治体及び事業者の情報発信に関する実証的研究事業 | ・地域PRに関する先行事例調査研究 ・地域PRパッケージの開発と実践:PR対象コンテンツの発掘、マスメディア等既存メディアの活用、ホームページやブログ、SNS等インターネットメディアの活用 ・地域PR効果の検証:イベント前に情報発信を行った各種メディア、および、当日の企画、特産品・名産品販売によるプロモーション効果の測定調査および分析 ・地域PRパッケージの応用に向けた検討:他自治体による本PRパッケージの実施可能性の検討 ・人財育成への応用:自治体や事業者、学生を対象とした情報発信方法に関する人材育成 ・報告書の作成 |